

総務省

S O U M U S H O

皆さまの暮らし応援情報誌



MIC

Ministry of
Internal Affairs and
Communications

4月号

2018 April

Vol.208

〔特集〕

地域力の創造

4月の花:サクラ
花言葉は「精神美」
「心の美しさ」など

地方のかがやき

大自然が生み出す四季の美が
人々の心を動かす「感動の里」



新潟県 | 魚沼市

MIC MONTHLY MAGAZINE

19 **世界にはばたく総務省**
坂井総務副大臣のペルーおよびコロンビアへの訪問

18 **700MHz帯携帯電話基地局の開設に伴う
テレビ受信障害対策が全国で実施されています。**

MIC NEWS 01

新潟県 魚沼市

地方のかがやき



13 「関係人口」創出事業

12 ふるさとワーキングホリデー

10 地域おこし協力隊

09 シェアリングエコノミー

08 ローカル10000プロジェクト(地域経済循環創造事業交付金)

04 **地域力の創造**
〜多様な地域力でニッポンを元気に〜
野田総務大臣×小田切徳美(明治大学農学部教授) 対談

特集

今月の
総務省
Monthly MIC

お役立ち

ツール
Useful tool

宿泊施設の防火安全を示す
「適マーク」とは?



3年間継続して基準に適合していると認められた施設には、適マーク(金)が交付されます。

まもなくゴールデンウィーク! そこで、旅行を計画している皆さまにぜひともご紹介したいのが、「適マーク」です。

このマークは、それを掲出している施設が「適マーク制度」の下に「安心・安全な宿泊施設」であることを示すものです。適マークには「金/銀」の2種類あります。

適マーク制度とは、収容人員が30人以上で、地階を除く階数が3階以上の宿泊施設を対象としたもので、対象施設から

の申請に基づいて、消防機関が審査した結果、消防法令のほか、重要な建築構造などに関する基準に適合していると認められた施設に対して適マークが交付されるというものです。

旅行を計画中の皆さま! 旅行先での宿泊施設を選ぶ際、この適マークは、きっと大きな目安になるでしょう。適マーク制度や適マーク交付施設については下記ホームページからご覧いただけます。

●適マーク制度 http://www.fdma.go.jp/kasai_yobo/hyoujiseido/index.html

日本全国「特色」MAP

なじみのものでもこんなに違う!

今月のテーマ
おにぎり
本格的な春の到来です。うららかな陽気の中、見上げれば美しい桜! そんな場所でお花見弁当を食べたい人も多いことでしょう。そこで今回は日本全国の様々なおにぎりを紹介します。

- 北海道〜バター焼きおにぎり**
おにぎりの表面に焦がしバターをつけて醤油をひと垂らし。
- 滋賀〜日野菜漬け**
伝統野菜である日野菜の漬物を細かく切って混ぜたおにぎり。
- 福井〜朴葉飯**
きな粉を稲穂に見立て、田植えが無事に終わったお祝いや豊作祈願として食べられていた伝統食。
- 青森〜菊かおり**
ゆでた食用菊とエダマメ、シメジの炒り煮を混ぜごはん。
- 群馬〜きび赤飯**
きびともち米を混ぜて炊き、花豆を合わせた三角にぎり。お正月やお祝い事に食べられる縁起物。
- 宮崎〜とうきびごはん**
乾燥トウモロコシを混ぜて炊いたごはん。米が貴重だった時代にトウモロコシでかさ増ししたのが始まり。
- 三重〜天むす**
エビの天ぷらを具にしたおにぎり。三重県津市の天ぷら店の「賤い料理」として出されたのが始まり。
- 福岡〜鬼の手ごぼし**
八女地方の千マキ。西南戦争時に西郷隆盛の兵団の携帯食を住民がまねて作ったのが始まり。
- 徳島〜すだちおにぎり**
お好み具のおにぎりに、スダチの皮を細かくすってまぶしたり、千切りを混ぜたり。爽やかな味!
- 沖縄〜バクダンおにぎり**
糸満地区の名物。ごはんを魚のすり身で包んで揚げたもの。

おにぎりの形いろいろ



球型

九州や中部でよく見られる形。早く握れることから、災害時の炊き出しなどでこの形が多い。



俵型

関西ではこの形が多いが、「ハレ」の席でのお弁当には、地域にかかわらず俵型のおにぎりが入っている。



三角型

全国で一般的な形だが発祥は関東と言われる。山型の頂点に神が宿ると信じられていたという説も。



円盤型

焼きおにぎりにするのが多い東北でよく見られる。みそをつけて焼いたり、葉に包んだりしやすい。

出典/ふるさとおにぎり百選、一般社団法人おにぎり協会、郷土料理百選 他

地域力の創造

Creation of Community Power

野田大臣 小田切先生は、農村政策論、地域ガバナンス論を専門にされ、農山村の集落レベルのフィールドワークを精力的に行われていると伺っています。「限界集落」とか、「過疎地域」といわれると、元気がなさそうに思われてしまいますが、先生は、「全然違うよ」という、すごく明るいメッセージを出しておられますね。

小田切教授 ありがとうございます。最近、農山漁村を歩くと、「過疎地域にもかかわらず、にぎやかだ」という印象を持つことがあります。地域内で新しい動きがたくさん起こり、何かガヤガヤしている雰囲気伝わってきて、私はそれを「にぎやかな過疎」と言っています。

人口減少、高齢化していても元気な地域

野田大臣 私も、総務大臣就任後、地方を知りたい、足を運び、自分の目で見られるようにして、昨年12月には、高知県大豊町を訪問しました。高齢化率が55.9%（平成27年国勢調査）なので、このデータだけみると厳しいな、と思っていたのですが、実際にお伺いしてみると、大豊町の皆さん、とても元気がいいのですよ。

小田切教授 数字だけ見れば、人口減少や高齢化が進んでいるけれど、住民の方だけでなく、「地域おこし協力隊」などの移住者も加わって、にぎやかがありますね。

野田大臣 データだけで判断して、こは「限界集落」あるいは「過疎地域」などとレッテルを貼ってはいけませんね。

小田切教授 日本社会の新しい姿が、むしろ過疎地域に見られるようになったという気がします。

野田大臣 地方自治体の区分「市」「町」「村」も、主に人口が基準になっていて、「村」と弱いというイメージを持たれているけれど、小さな「村」でもすごいポテンシャルがあって、それを知らないだけではないか、それが日本を強くする糧なのではないかと思えます。

地域を元気にするチカラ

野田大臣 やはり「地域力」



明治大学農学部教授 小田切 徳美
おだぎり とくみ



総務大臣 野田 聖子

対談

Special Talk

「多様な地域の力でニッポンを元気に！」

口が基準になっていて、「村」と弱いというイメージを持たれているけれど、小さな「村」でもすごいポテンシャルがあって、それを知らないだけではないか、それが日本を強くする糧なのではないかと思えます。

「地域づくり」は

小田切教授 「地域づくり」の本質は3つです。まず、「内発性」で、地域の中から湧き上がってくる力。2つめが「多様性・総合性」で、多様な実態の中で総合的な取組を行うこと。3つめが「革新性」で、新しいことへの挑戦です。

野田大臣 「革新性」というと、つい、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）などといった科学技術を想像してしましますが、徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」などのように、地域にあるものを活かす知恵が重要ですね。総務省でも、「ローカル10000プロジェクト」で応援していますが、今、地域資源を活かして起業する動きがとも活

野田大臣 「革新性」というと、つい、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）などといった科学技術を想像してしましますが、徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」などのように、地域にあるものを活かす知恵が重要ですね。総務省でも、「ローカル10000プロジェクト」で応援していますが、今、地域資源を活かして起業する動きがとも活

地域の魅力を発掘する

小田切教授 特に重要なのは、女性の参画です。従来の仕組みだと男性中心になってしまいがちですが、女性が参画できるようにしている地域は成功していますね。

野田大臣 東京では、待機児童の問題がある一方で、合計特殊出生率が低いという問題もあります。今は地方への若い女性の流入が増えてきていると聞きます。これはどうしてでしょうか？

小田切教授 そのことを「田園回帰」と言っていますが、その理由は、若者の価値観の多様化です。東京で「旗揚げるとか、国際的に活躍する」という価値観ではなくて、自分の人生を自分のために、あるいは地域社会のために、という価値観が一部生まれてきて、それが「田園回帰」の動きにつながっています。

野田大臣 モノを持つことが



発になっています。

小田切教授 地域づくりで一番重要なのは、地域の方々の当事者意識です。極端に言えば、お金でも技術でもなくても、自分達の問題だと気が付いて、そして、一歩踏み出すことが大事で、どこでもできると思っています。

野田大臣 美しい景観や自然、伝統文化、高品質な農林水産物などの地域資源も、ずっとそこに居ると当たり前のことになり、気がつかないことがありますよね。いろいろな良いところ、地域の魅力があると思うので、それを外から見ている人が発掘して、その価値を

ステイタスという世代ではなく、地域の優れて良いところを見出せる世代ですね。

小田切教授 とても多様な発想ができる世代で、移住者の中には、親世代は動かないけれど、孫世代が祖父母のいる地域に帰っていく、「孫ターン」という現象もあります。

これからのニッポンを豊かにするために

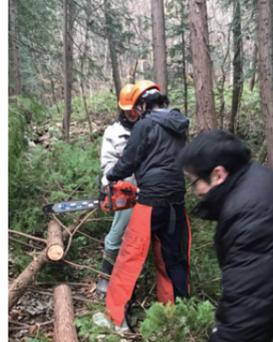
野田大臣 高齢者人口が最大となる2040年頃をターゲットにして、人口減少・少子化が進む中で、今後取り組むべき対策を検討しています。この2040年頃には、大都市がとも苦勞する時代になるので、これまで「弱い存在」とレッ

テルを貼られた地域の人たちが担い手となって、新しいニッポンを創って欲しい、という思いで取り組んでいます。特に「村」には個性や特色がしっかりと残っていますので、そうした地域が持つ多様性を見える化して、活躍している人たちにもっとスポットライトを当てて、そういう芽がどんどん出てくるような流れを作っていきたいと考えています。

小田切教授 今、農山村で起きていることは、大臣がおっしゃったように、これからは大都市でも起こります。最近では、「地域運営組織」という、地域住民が困りごとを解決するような組織づくりのために、都市側が先発する農山村から学ぶ動きもできています。



野田大臣 日本のこれからの将来を考えたときに、これまでのように単純にモノを作って売る国ではなく、知恵を売っていく国だとするならば、国全体が単一的だと知恵が限られてしまうので、多様性が重要になります。いろいろな地



特集



地域力の創造

Creation of Community Power



地域の魅力、資源に気づき、
それを磨き上げていく。
共助の仕組みを再構築して
地域で支え合う。
地域の中から湧き上がってくる
チャレンジを全力で応援します！



「地域には大きなポテンシャルがある」野田大臣

「可能性を伝え、
立ち上がることを促進すべき」小田切教授

域で育った人たちが集まって、
いろいろなアイデアや意見を
出しあっていたかなければいけ
ないと思います。面倒を見てあ
げるという考え方はなく、
自力で、若者を増やしている、
子どもについても合計特殊出
生率を上げている、そういう、
都市ではあり得ない、奇跡を
やっている地域をもっと応援
していきたいと思っています。

えもありますし、東京と地方
とを行き来して、週末に付加
価値の高い、オンリーワンの農
産物を作るといふ副業もでき
るのではないかと考えています。

新しいライフスタイル

野田大臣 根性で頑張ると
いうのではなく、良いところを
褒めて伸ばす、という方が自然
ですよね。支え合いが大事で、
お互いの良いところを褒め称え
あつて連携していく、お互い宝
を磨き上げていくという発想
が大事だと思います。例えば、
シテリングエコノミーという考

野田大臣 新しい発想です
ね。若者達の新しい生き方
は、とても期待できますね。
そういう地域でチャレンジを
する若者達が、どんどん自分
の活躍する場を見つけれられ
るようにしていきたいですね。
総務省でも、「地域おこし協
力隊」だけでなく、地域での
暮らしを丸ごと体験しても
らう「ふるさとワーキングホリ
デー」などに取り組んでいて、
若者達の出会いや気づきを
応援しています。

には、「移住コーディネーター」
や「定住支援員」の役割が大
きいと思います。そういう支
援がある地域に人が集まって
きていますね。

野田大臣 今日ありがとうございます。
ございました。全国各地域
で、「地域力」を高める取組が
活発に行われ、人々が地域で
支え合う社会を目指してい
きたいと思っています。ぜひ、一緒
に頑張りましょう。



総務大臣

野田 聖子

明治大学農学部教授

小田切 徳美

「共助の仕組み」で 地域課題を乗り越えよう!

シェアリングエコノミー

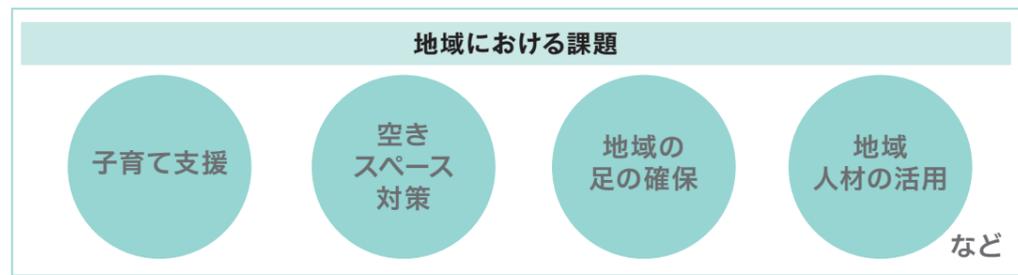
「シェアリングエコノミー」とは、家事や育児などのスキル、空きスペース、移動手段など、個人などが保有する活用可能な資産を、賃借や売買、交換などを通じてシェアしていく新たな経済の動きを言います。

近年、スマートフォンやソーシャルメディアの普及に伴う個人の情報発信能力の飛躍的な向上によって、シェアリングエコノミーが登場した結果、人と人を結びつけ、新たな「共助の仕組み」を生み出す事例が創出され始めています。例えば、自宅の空きスペースを泊まりたい人に貸し出すスペースのシェア、子育て中の共働き夫婦が子どもを一時的に地域の方々に預ける子育てのシェアなどの事例が挙げられます。

現在、地域において、シェアリングエコノミーの仕組みを活用して、地域課題の解決や地域経済の活性化につなげる、ことができるのではないかと期待が寄せられています。

こうした流れを受け、総務省では、本年度から、シェアリングエコノミーを活用する地方自治体によるモデル事業を実施します。

シェアリングエコノミーを活用した地域の課題解決のイメージ



シェアリングエコノミー

地域の活用されていない資源

- 遊休スペース(空き家、廃校など)
- 主婦などのすきま時間
- 活用されていないスキル
- 使っていないモノなど



マッチングにより地域でシェア

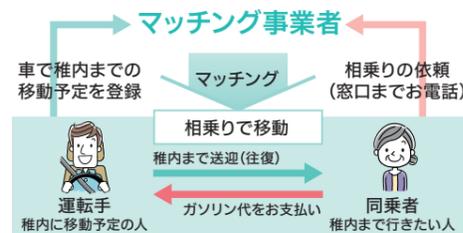
地域住民のニーズ

- 一時的な活動場所が欲しい
- 地域の人材をクラウドワーカーとして活用したい
- 何かあった時に子育てを頼る人が欲しい など



事例 北海道天塩町

天塩町における相乗りマッチングの仕組み



[条件] ドライバー: 「70歳未満」「スマホ・インターネット可」「自動車任意保険加入」
同乗者利用: 「18歳以上の町民」「電話窓口利用」

北海道天塩町では、総合病院や商業施設がある最寄りの稚内市に向かう直行の公共交通機関がないため、稚内市に移動予定の人が稚内に行きたい地域の高齢者などを車に乗せる相乗りマッチングを実施しています。



住民説明会の様子

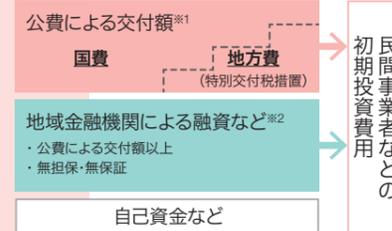
地域の資源と資金を活用した ビジネスで地域に活力を!

ローカル10,000プロジェクト(地域経済循環創造事業交付金)

人口減少社会の中、地域の活性化を図るためには、地域経済の好循環を拡大し、地域の雇用を創出していくことが不可欠です。

そこで、総務省では、地域の特色のある資源や人材と各地域で活用可能な豊富な資金とを結びつけて、地域密着型の事業の立ち上げを支援しています。昨年度末までに全国で3,577事業の立ち上げを支援し、各地域で好事例が生まれています。なお、本年度からは制度改正を図り、さらなる支援を推進します。

また、本プロジェクトのほか、ふるさと納税を活用して地域における起業支援に取り組み、地方自治体への支援策も新たに実施します。



※1 上限2,500万円。融資額(または出資額)が公費による交付額の2倍以上の場合は、上限4,000万円
※2 地域金融機関による融資の他に、地域活性化のためのファンドなどによる出資を受ける事業も試験的に対象

ローカル10,000プロジェクト施策例

東京都町田市での事例

地域ブランド「まちだシルクメロン」の生産と農工商連携により開発したプラントシステムの販売

- 商工会議所による農工商連携の提唱から、高い技術力を持つ地元中小企業の協力を得て、地域密着型の新しいアグリビジネスを展開
- 商工会議所が商標権を持ち、ブランドの保護・管理を実施
- 地元飲食店や小売業に、加工品の商品開発を促し、地域雇用を創出する取組



福井県若狭町での事例

宿場町の築130年の大型古民家をシェアオフィス&イベントスペースにリノベーション

- 重要伝統的建造物群保存地区「熊川宿」の中心にある古民家をシェアオフィスに改修
- 地域金融機関と協働し、入居希望者を誘致。広い納戸を改修したイベントスペースは地域の交流の場としても活用
- 先進事例をつくることで、他の空き家所有者に利活用を促し、宿内のまちづくりの機運を醸成



岐阜県郡上市での事例

観光列車の運行による観光の活性化と沿線の維持

- 沿線地域の人口減少やモータリゼーションの進展による鉄道利用者の減少
- 地域外からの観光客を迎えることを主眼に、地域の食材を活用した料理も提供する本格的な観光列車に改装
- 長良川と沿線地域の観光資源を活用した体験型観光の商品化を促進



熊本県八代市での事例

「クマモトオイスター」の復活と女性スタッフ(漁師の妻・娘さん達)によるカキ小屋運営

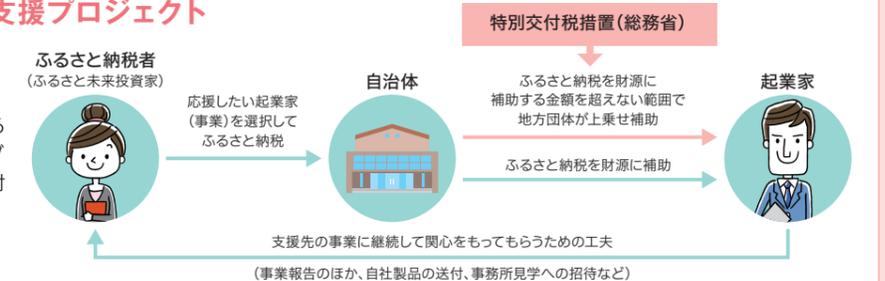
- 新たな地域ブランド化を目指し、「クマモトオイスター」発祥の地で養殖を開始
- カキの養殖・販売・カキ小屋の運営を一体的に実施
- 女性スタッフがピンクのTシャツを着ていたことからSNSで話題に。地元TVでも「ピンクレディー」と紹介され人気拡大



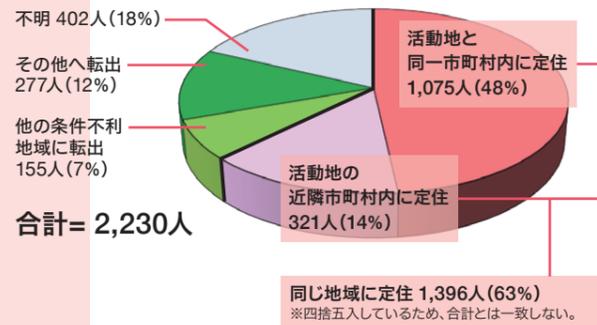
新たな支援策

ふるさと納税と起業家支援プロジェクト

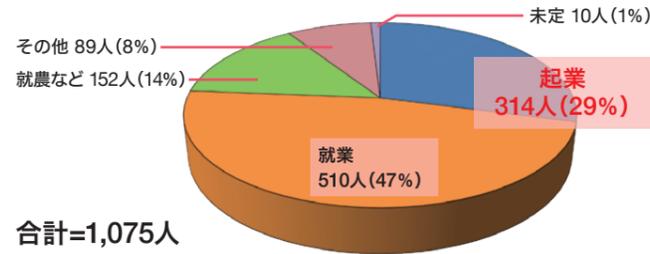
地域経済の好循環の拡大を図られるよう、自治体がクラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、起業家に対して資金提供を行う。



任期終了後、約6割の隊員が同じ地域に定住



同一市町村内に定住した者(1,075人)の約3割は起業



任期終了後は

昨年3月末までに任期を終了した協力隊員(2230人)のうち、約6割が同じ地域に定住しています。就職や就農のほか、起業をされる方も増えています。総務省では、起業支援の仕組みも準備しています。

あなたの力で、地域を元気に

地域おこし協力隊は、本年度で10年目を迎えます。全国で約5000人規模となり、国民の皆さまに広く知られる制度となりました。そして、地域おこし協力隊に対する地域の期待は、ますます大きなものとなっています。あなたの力で、地域を元気にしませんか？

移住にご興味のある方は

移住にご興味のある方は、東京駅の八重洲中央口から徒歩4分の「移住・交流情報ガーデン」にお越しください。「移住・交流情報ガーデン」では、居住・就労・生活支援などに係る情報提供や相談についてワンストップで対応しています。地方自治体や関係省庁とも連携し、「全国移住ナビ」を活用して総合的な情報提供を実施しており、地方自治体などによる移住相談会やフェアなども随時開催しています。



ガーデン館内 移住フェアの様子



隊員と意見交換する野田総務大臣

お問い合わせ先

地域おこし協力隊Facebookページ

URL <https://www.facebook.com/chiikiokoshikyouryokutai/>

一般社団法人移住・交流推進機構(JOIN)のポータルサイト

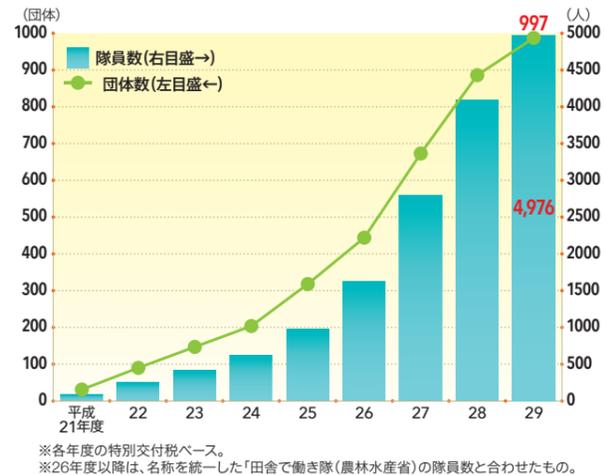
URL <https://www.iju-join.jp>

任期終了後の活動を紹介

鹿児島県西之表市の遠藤裕未さんは、任期中に立ち上げた「一般社団法人なかわり生姜山農園」の事務局長と、生姜を使った農園カフェ＆レストラン「Ginger Village」の店長をしています。農園では、農薬や化学肥料を使わない生姜栽培と生姜商品の製造・販売を行っています。



鹿児島県西之表市の遠藤裕未さん



地域おこし協力隊員になるまでの流れ

- ① 地域おこし協力隊員は、地方自治体が募集・選考します。地方自治体による募集情報を随時確認してください。活動内容や条件、処遇なども地方自治体によって異なります。(総務省は隊員1人につき、報償費など200万円(原則)を含む、上限400万円を財政支援しています。)
- ② 募集している地方自治体へお申し込みください。
- ③ 地方自治体による選考の結果、採用が決定します。
- ④ 地方自治体から、委嘱状などの交付により「地域おこし協力隊」としての委嘱を受けます。
- ⑤ 現住所から採用先の地方自治体に住民票を移動し、地域おこし協力隊員として活動を開始します。

気になる地域に住んでみよう!

地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は、おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体からの委嘱を受け、地域で生活し、様々な地域協力活動を行っている隊員です。活動内容は、地域行事やイベントの応援、伝統芸能や祭りの復活、地域ブランドや地場産品の開発・販売・プロモーション、空き店舗活用などの商店街活性化、農業支援など、地方自治体によって様々です。

昨年度は全国997団体に、おいて4976人の隊員が活躍しています。

地域おこし協力隊員になるには

地域おこし協力隊員は、地方自治体が募集・選考します。地方自治体による募集情報を随時確認してください。一般社団法人移住・交流推進機構(JOIN)のポータルサイトにも募集情報が掲載されています。

活動内容や条件、処遇なども地方自治体によって異なります。総務省は隊員1人につき、報償費など200万円(原則)を含む、上限400万円を財政支援しています。

全国の地域おこし協力隊員の活動を紹介

活動事例 1

三重県鳥羽市の大野愛子さんは、海女後継者として海女漁に従事しながら、東京でフォトグラファーとして活動していた経験を活かし、海女文化の記録・保存など、地域の魅力の情報発信を行っています。任期終了後は、地域の空き家をリノベーションして海が見えるゲストハウス兼スタジオ



三重県鳥羽市の大野愛子さん

活動事例 2

大分県臼杵市の山崎誠さんは、有機農業農家を志し、様々なリサーチを経て、有機農業に特化した臼杵市の協力隊へ応募しました。臼杵市の取組に共感しており、県内外イベントでの「ほんまもん農産物」(臼杵市認証の有機野菜)の販売・PR、小学校の食育事業への参



大分県臼杵市の山崎誠さん(写真右)

加、有機農家での研修などに励んでいます。

地域との関わり、もっと深めませんか？

ふるさとワーキングホリデー&「関係人口」創出事業

あなたには、応援したい地域や、気になっている地域があるでしょうか。例えば、今は都市部に暮らしているけれども、地元にも愛着があって、帰省の際には地域のお祭りや清掃活動などに参加する人、また、旅行で訪れた時の特産品の味が忘れられず、旅行から帰ってからアンテナショップに買いに行く人、自分なりに「地域」に関わりたくて、貢献してみたいという思いを持ちながらも、なかなか踏み出せないという人もいます。あなたは、どうでしょうか。

今後は、こうした方々との関係を長期的に継続することによって、地域への「ヒト・情報」の流れを創出することにつながることも重要です。



学びの場に参加する参加者

ふるさとワーキングホリデー

総務省では、地域に対し移住には至らずとも観光以上の想いを寄せる方々に、地域と関わるきっかけを提供し、地域への「ヒト・情報」の流れを創出する「ふるさとワーキングホリデー」などに取り組みんでいます。

「ふるさとワーキングホリデー」とは、都市部に住む若い方々などが、単なる数日間の観光では味わえない、地域を丸ごと体験するというプログラムで、昨年1月に始まりました。

本プログラムには本年3月時点で1,800人を超える人々が参加し、参加者の中からは、その

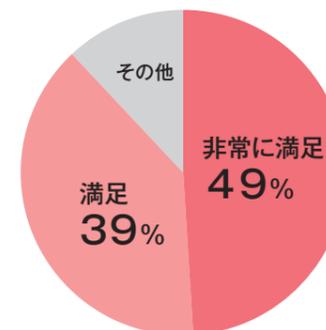


地域の方と農産物の仕分けを行う参加者

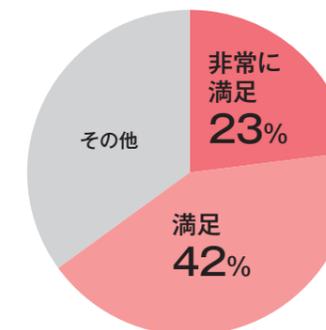
旅とはちがう、ふるさとへ。

～これまで1,800人がチャレンジ～

後も定期的に地域を訪問する方、参加市町村で地域おこし協力隊として活動する方、さらには移住した方まで、地域と様々な関わりを持つ方が現れています。



ふるさとワーキングホリデー参加者の満足度 N=170人

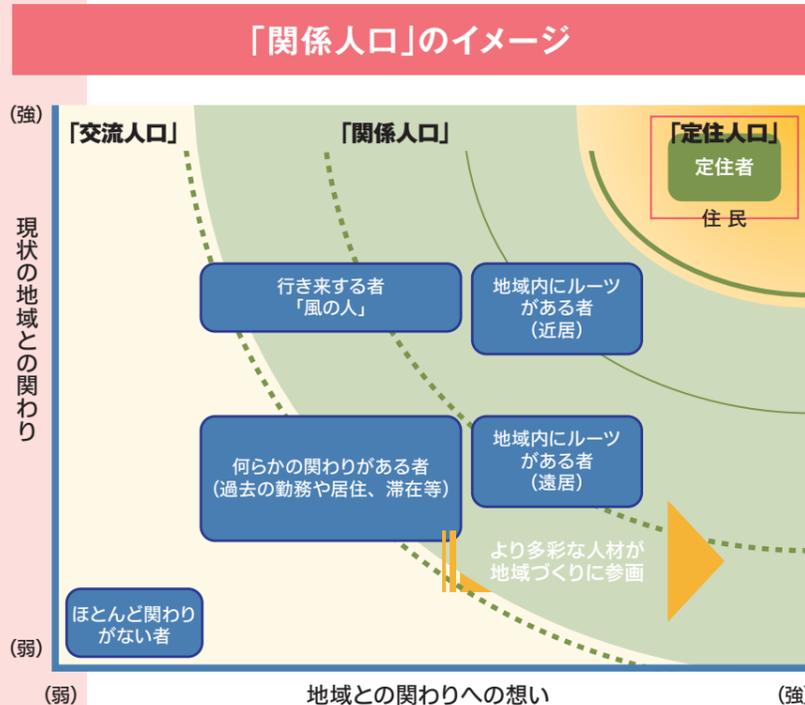


ふるさとワーキングホリデー受入企業等の満足度 N=102

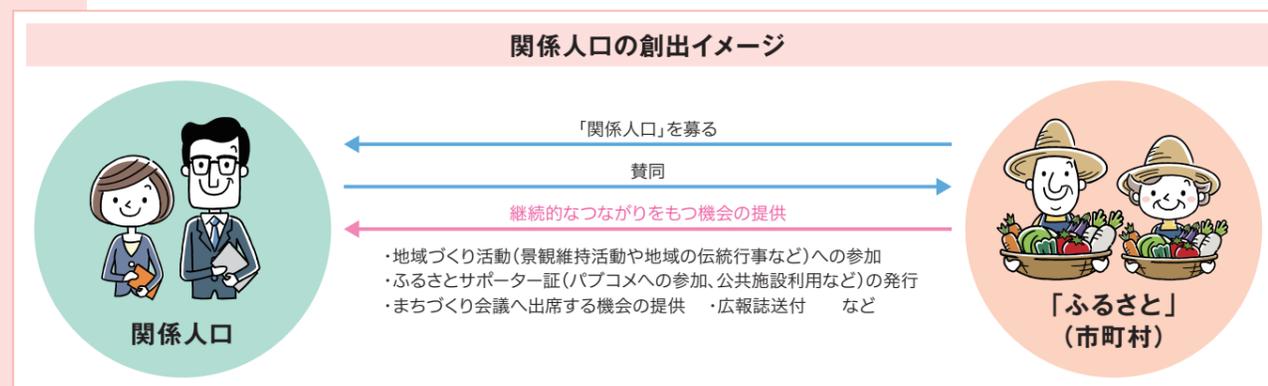
実際に行ってみると思っていた以上に新しい人々との出会いや刺激にあふれていました。時間が許すなら理由がなくても、ぜひ参加すべきと思います。(大学4年生)

「ごっこ汁」の味や雪国での生活の知恵、価値観の違いによる町おこしの難しさなど、様々な人々との交流から多くのことを学びました。(大学1年生)

従業員の仕事へのモチベーションのアップ、自社への誇りの形成などに成果があり、会社へのロイヤリティの向上が確認できました。また、社内のマンネリ化を防ぐことができ、フレッシュな気持ちで業務を遂行する姿が目立ちました。(受入企業等)



地域住民との交流の様子



「関係人口」創出事業

総務省の「これからの移住交流施策のあり方に関する検討会」(座長:小田切徳美明治大学農学部教授)において、「関係人口」に着目し、地域外からの交流の入り口を増やすことの必要性が指摘されました。「関係人口」とは、地域と頻繁に行き来する方や地域内にルーツがある方

など、移住した「定住人口」でも、観光にきた「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者を意味します。

前出のふるさとワーキングホリデーは、「関係人口」となる最初のきっかけを提供する取組の一つですが、本年度から「関係人口」に対して、「ふるさと」の地域づくりに関わるきっかけ、機会を提供する地方自治体を支援する「関

係人口」創出事業に取り組むことになりました。この取組では、地域との関わりを既に持っている方(その地域にルーツがある方やふるさと納税を行った方など)に対して、地域と継続的なつながりを持つ機会を提供したり、これから地域との関わりを持つようとしていられる方に対して、都市部で暮らしながら、地域課題の解決などに継続的に関わるきっかけを提供するモデルの構築を目指します。

「関係人口」としての地域との関わり方は人によって様々。地域に関心を抱いているだけで、もう「関係人口」の入り口に立っています。あなたは、どの地域の「関係人口」になりますか？

魚沼市

大自然が生み出す
四季の美が
人々の心を動かす
「感動の里」



魚沼市から尾瀬国立公園へのルートは、尾瀬沼までの日帰りハイキングや湖上遊覧船を使って尾瀬の自然を楽しむことができる。



小出駅(魚沼市)と会津若松駅(福島県会津若松市)を結ぶ只見線は、山間を縫うように走る。夏、車窓から眺める樹々の緑が美しい。



9月頃、田んぼは一面黄金色に輝き、10月に入ると、山々は紅葉で色づく。魚沼の秋は彩り豊か。



冬の魚沼は、田んぼも山も家も車も雪化粧。しんしんと降る雪が音をも包み、心が洗われるよう。



奥只見レクリエーション都市公園内「根小屋 花と緑と雪の里」は、5月初旬に16万株の芝桜が咲き誇り、鮮やかなピンクのじゅうたんのよう。



魚沼市は日本有数のユリの産地。7月、月岡公園では約1万本のユリが開花し、甘い香りに包まれる。

Uonuma-shi



魚沼市には奥只見ダムをはじめ、破間川ダム、黒又ダムなど8つのダムがあり、スタンプラリーも行われている。



永林寺や西福寺開山堂には、「日本のミケランジェロ」と称えられる名工・石川雲蝶による彫刻が残されている。



今年で第30回を迎えた小出国際雪合戦大会(毎年2月開催)。約250チームが戦うこの大会には海外からの参加者も多い。



毎年秋に開催される「魚沼こしひかり紅葉マラソン」。走った後には、おにぎりがふるまわれる。

新潟県南東部に位置し、福島県と群馬県の県境に接する魚沼市。西を魚沼丘陵、東を三国山脈に挟まれた盆地で、森林が84%を占め、市の中心部には魚野川、その支流である破間川、佐梨川、羽根川が流れる自然豊かな地域です。
3メートルもの積雪がある豪雪地帯で、冬場は辺り一面が白に染まる、まさに「雪国」。しかし春になると山の樹々は新緑に、夏は濃緑に染まり、あちこちで色鮮やかな花が見られます。

上越新幹線で東京から約90分、新潟市からは約40分というアクセスの良い場所にありながら、雄大な景色に包まれて、雪まつりやウィンタースポーツはもちろん、登山や尾瀬歩き、川釣り、温泉など多彩なアクティビティが楽しめるのも魚沼市の魅力です。
新雪が生み出す澄んだ空気と清らかな水は、米や野菜・山菜を育み、食べものや地酒がおいしいことでも知られ、毎年185万人もの観光客が訪れています。

Profile

人口 | 36,883人(平成30年2月末日現在)
面積 | 946.76km²
URL | <http://www.city.uonuma.niigata.jp/>

平成16年11月に、北魚沼郡堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村の6自治体の合併により誕生。首都圏と新潟県を結ぶ交通の要衝に位置し、豊富な地下水に恵まれていることから企業誘致に力を入れ、大手食品メーカーなどの生産・物流拠点にもなっている。



「人と四季がかがやく雪のくに」を目指して
魚沼では、豪雪に見舞われた長かった冬を終え、若葉が芽吹く希望に輝く春を迎えました。合併により魚沼市が誕生して14年、時代に対応した新たなまちづくりを進めています。
魚沼市の重点施策の一つは、風景、水、空気、食、花、森林などの豊かな「地域資源の活用」です。また、首都圏とのアクセスの良さを生かして、コシヒカリやユリをはじめとする「魚沼ブランド」を全国に発信し、販路拡大



魚沼市市長 佐藤 雅一

大・観光誘客の増加、魚沼市の魅力と財政力など総合力の向上を期待しています。
今後ともまちづくりの基本理念である「人と四季がかがやく雪のくに」を目指し、少子高齢化が進む中で住みやすい、子育てしやすいまちづくりを進めて参ります。



魚沼産の米は、山間地特有の気候が生み出す強い旨味と粘りが特徴。

「食まち うおぬま」 食でつながる元気なまちづくり

「魚沼」と聞いて、とっさに米を思い浮かべた人も多いのではないだろうか。そう、ここは米の人気ブランド、魚沼産コシヒカリの産地です。

平成25年度の食に関する地域ブランド調査(ブランド総合研究所調べ)では、魚沼市は、「農林水産業が盛んだと思われる市町村」で全国第1位を獲得しており、「食の豊かなまち」として認知されています。

多くのミネラルを含んだ雪解け水、昼夜の温度差の大きい気候、肥沃な土壌に恵まれ、上質の米や野菜・山菜が収穫できる魚沼市ですが、それでも「食」に関する様々な課題に直面しています。

基幹産業である農業は、生産者の高齢化や後継者不足に悩まされ、平成7年から27年までの20年間で、総農家数が

約36%減少。また、食文化の多様化や簡略化、低価格志向などの理由で、地場産品離れも目立ちます。

こうした状況の中、魚沼市では、健康増進や食育の推進、さらには食関係の産業や組織と連携して需要拡大を目指す「食でつながる元気なまちづくり」を展開しています。

四季折々に行われる食歩きイベントや、食の関心を高め食文化継承のための活動などを通じて、市民と農家、メーカーや飲食業者など「生産と消費」をつなぎ、総合力での食のまちづくりの推進に取り組んでいます。



「食まち うおぬま」のロゴマーク。6粒の米は、6地域が合併してできた「魚沼市」、茶碗と箸で「食」、笑顔マークは「元気」を表している。



子どもたちが生産の現場を訪ねる「あくりーんキッズくらぶ」のフィールドワーク。

食のイベント、健康食レシピや離乳食レシピなど、魚沼市の「食」に関する様々な情報を発信するポータルサイト「食まち うおぬま」。魚沼産農産物の直売所情報や推奨品の紹介などもある。

•<http://www.shokumachi-uonuma.jp/>

02 「魚沼産森ひかり」 森の恵みを体験・体感する



高校生〜30歳を対象とした「魚沼! 森林塾」。好評で定員オーバーとなることも。



道具の取扱い方から板取り、組み立て、塗料塗りまで指導する「木工体験」は2日間の行程で行われる。



•<http://www.morihikari.jp/>

森林面積が8割以上を占める魚沼市では、ホームページ「魚沼産森ひかり」を通じて、林業を紹介するとともに森林資源を活用した様々な体験イベントを用意し、全国に発信しています。

チェーンソーや草刈り機の操作、玉切りなど林業を1泊2日で体験する「魚沼! 森林塾」や、「山菜狩り」「キノコ狩り」など森の恵みを存分に味わえるイベントの他、地域に残る伝統技能である、「炭焼き紙すき」・「木工」体験などもあります。

また、郷土料理などを楽しめる宿の紹介や、炭焼職人など森の達人たちが自身の言葉で魚沼の森の魅力を語る読み応えのあるページもあります。

これらの体験やホームページをきっかけに、たくさんの方に魚沼市のファンになってもらうと同時に、林業の後継者づくりにもつなげていこうという取組です。

「子育ての駅」整備プロジェクト 子育てにやさしいまちづくり



魚沼市子育て支援センター「ばびふ」の様子。

03 地方の

魚沼市では、結婚から出産・子育てまでの切れ目のない支援を行っており、各種手当、医療費や検診などに対する助成はもちろん、保護者と子どもが自由に遊べる親子ふれあい広場、市民が協力し合い育

児の相互扶助活動を行うファミリー・サポート・センターなど、育児の悩みや困り事を地域で共有し解決する仕組みをつくり、子育て世代を応援しています。

その一つ、「子育ての駅(仮称)整備プロジェクト」は、遊休中の観光インフォメーション施設を、地域全体が子育てに参加することを理念とした拠点施設「子育ての駅」として再生するという事業。「子育ての駅」は今年度開設予定です。

Q 魚沼でまさかの流氷?

春に見られる「雪流れ」

春先の限られた2週間ほどの期間、破間川ダムでは「雪流れ」が見られる。流水ではなく、ダム湖に積もった雪が浮き上がって湖面に浮いている現象。

Q 楽しい魚沼弁を教えてください!

あちこたねえ

魚沼の方言と郷土史を研究する 青山幸子さん

これは「大丈夫」「心配いらないよ」という意味。子どもが転んだときなどに、「おーそんなん、あちこたねえよ」と使う。

Q 列車に向かって整列…何やってる?

只見線にみんなで手をふる条例

只見線は市民にとって大切な路線。というわけで、魚沼の人たちは只見線が通る度にみんなで手を振ろうという条例がある。





ジウフラ運輸通信大臣との会話の様子

世界にはばたく 総務省

Ministry of Internal Affairs and Communications

坂井総務副大臣の
ペルーおよび
コロンビアへの訪問



ロソ情報技術通信副大臣との会話の様子



国際熱帯農業センター視察の様子(コロンビア)

坂井総務副大臣は本年1月、ペルーおよびコロンビアを訪問しました。ペルーでは、ジウフラ運輸通信大臣と会談し、総務省が主体的に取り組む地デジ推進や防災、医療、教育、貿易および交通物流など様々な分野における今後の情報通信技術（ICT）の協力について意見交換を行いました。また、国家防災庁国家緊急センターを訪問し、カラリサ国家防災庁長官と防災に関する意見交換を行うとともに、同国が導入した、地デジ日本方式を活用した防災システム（EWBS）の運用現場を視察しました。

コロンビアでは、ロソ情報技術通信省副大臣やサンブラーノ農業・地方開発省副大臣ら政府要人と会談し、スマートシティおよび農業分野におけるICT協力について意見交換を行いました。また、古河電工コロンビアの光ファイバケーブル工場および国際熱帯農業センター（CIAT）を訪問し、現地進出日本企業の活動や、日本企業のICT技術が活用されている農業現場を視察しました。

地デジ日本方式採用国の約7割を占める中南米では、日本企業のICTソリューションの質の高さも評価されています。総務省は、中南米をはじめ他の多くの国とも、地デジやICT分野における関係強化を引き続き取り組み、良好な関係を築きつつ、日本企業の海外展開を推進していきます。

700MHz帯携帯電話基地局の開設に伴う テレビ受信障害対策が全国で実施されています。

～700MHz帯を利用する携帯電話の電波によって、お住まいのテレビに影響が出る場合があります～



総務省は平成24年に、近年のスマートフォン等の普及に伴う携帯電話のトラフィックの増加に対応するため、かつてアナログ放送で利用されていた700MHz帯の周波数を携帯電話事業者に割り当てました。これに伴い、700MHz帯携帯電話基地局周辺の家屋・ビルなどにおいて、受信したテレビ信号を増幅する装置（受信ブースター）を使用して地上デジタル放送を視聴し、かつ、受信ブースターが旧アナログ放送にも対応している場合は、受信ブースターの動作不良などにより放送を正常に視聴できなくなるテレビ受信障害が発生することがあります。

このため、携帯電話事業者は、「一般社団法人700MHz利用推進協会」を設立し、700MHz帯携帯電話基地局周辺の建物における**テレビ受信障害対策を無料で実施**しております。テレビ受信への影響が想定されるご家庭には、同協会からチラシの配布などによるご案内があります。

皆さまが快適にテレビをご視聴いただけますように、テレビ受信障害対策へのご理解とご協力をお願いします。

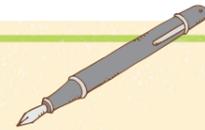
テレビ受信障害が発生する可能性が高いエリアにはこちらのチラシが配布されます。数日後に工事作業員がご家庭を訪問します。



テレビ受信障害が発生する可能性がわずかでもあるエリアにはこちらのチラシが配布されます。チラシに記載されている日以後に、テレビの映像が乱れた場合は、チラシ記載のコールセンターへ連絡してください。

編集後記

editorial note



東京駅から新幹線で約90分。気がつくところにはもう白銀の世界。本誌の取材で新潟県魚沼市に行ってきました。事前情報では少ないところでも2メートルの積雪とのこと。2メートル？少し話を盛ってる？と疑った愚かな私をどうかお許しください。魚沼市は日本有数の豪雪地帯。幸い取材日は快晴でしたが、北陸地方は記録的な大雪に見舞われた時期でした。積もり積もった雪を前にして、雪国における生活の厳しさを痛感しました。そのような時期に取材にご協力いただいた魚沼市役所の皆さま、本当にありがとうございました。

尾瀬、只見線、温泉郷、スキー場、山など個人的にも行ってみたいところがたくさんあります。

魚沼市といえば、

① つくし四季折々の風景

② おいしいお米と豊かな食文化

③ くもりのある「人づくり」

④ たまたま！と思わせる街

本誌掲載をきっかけに二人でも多くの方が魚沼市を訪れていただければと切に願っております。

(広報室 織田)

広報誌「総務省」についてのご意見・ご要望は、FAXまたは電子メールでお寄せください
FAX | 03-5253-5174 メール | kohoshi@soumu.go.jp

Q

誰が作業に来るの？

700MHz利用推進協会から業務委託を受けている工事作業員がお住まいを訪問します。工事作業員は必ず「テレビ受信障害対策員証」を携帯していますので、**不審に思われた場合は、工事作業員に対策員証の掲示を求め、下記コールセンターへ対策員証の番号をお問い合わせください。**

Q

テレビ映像の回復作業とはどのような作業をするの？

工事作業員は、お住まいを訪問し、ご了承を得た上で、室内でテレビ映像や機器の確認などを実施します。工事が必要なことが判明した場合は室内での作業のほか、屋根上など、アンテナの設置場所で作業する場合があります。

Q

テレビ受信障害対策には費用がかかるの？

テレビ受信障害対策に関する費用は全て700MHz利用推進協会が負担しますので、**工事作業員が費用を請求することは絶対にありません。また、物品の販売を行うこともありません。**詐欺行為や悪徳商法にはくれぐれもご注意ください。

総務省ホームページ(700MHz帯を使用する携帯電話基地局の開設に伴うテレビ受信障害対策について)
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/89300.html

お問い合わせ先

一般社団法人700MHz利用推進協会 700MHz(メガヘルツ)テレビ受信障害対策コールセンター
Tel. 0120-700-012(通話料無料) <http://www.700afp.jp/>

受付時間:午前9時から午後10時まで(土日・祝日および年末年始を含む)
※IP電話などで上記につながらない場合は、050-3786-0700におかけください。



言語の壁を越える 多言語音声翻訳アプリ

開発元



ダウンロード、ご利用もすべて無料 (利用にはデータ通信が必要となり、通信料は利用者負担です)



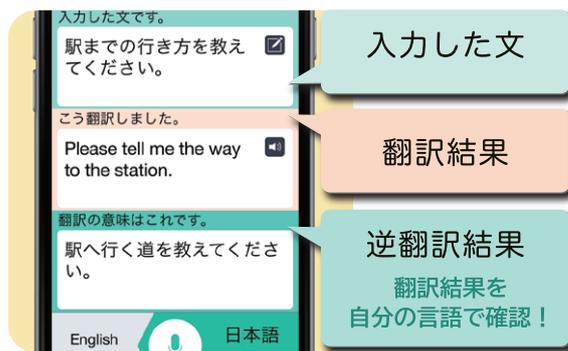
◆ 使い方がわかりやすい

シンプルな画面なので操作も簡単です。ガイドも表示されていて、すぐに使い方がわかります。



◆ 翻訳結果が正しいかがわかる

「翻訳結果」を、もう一度自分の言語に翻訳しなおした「逆翻訳結果」が表示されます。「入力した文」と見比べると、意図が正しく伝わっているか確認できて安心です。



翻訳できる言語 (31言語)

翻訳できる言語は 31 言語です。(中国語、ポルトガル語の方言を含みます。)

🎧 音声で入力できる (23言語対応) 🔊 音声が出力される (17言語対応) 🎧🔊 今後対応予定

🎧 🔊 日本語	🎧 🔊 ベトナム語	🎧 🔊 シンハラ語	🎧 🔊 ポーランド語
🎧 🔊 英語	🎧 🔊 スペイン語	🎧 🔊 デンマーク語	🎧 🔊 ポルトガル語
🎧 🔊 中国語 (簡体字)	🎧 🔊 ミャンマー語	🎧 🔊 ドイツ語	🎧 🔊 ポルトガル語 (ブラジル)
🎧 🔊 中国語 (繁体字)	🎧 🔊 アラビア語	🎧 🔊 トルコ語	🎧 🔊 マレー語
🎧 🔊 韓国語	🎧 🔊 イタリア語	🎧 🔊 ネパール語	🎧 🔊 モンゴル語
🎧 🔊 タイ語	🎧 🔊 ウルドゥ語	🎧 🔊 ハンガリー語	🎧 🔊 ラオ語
🎧 🔊 フランス語	🎧 🔊 オランダ語	🎧 🔊 ヒンディ語	🎧 🔊 ロシア語
🎧 🔊 インドネシア語	🎧 🔊 クメール語	🎧 🔊 フィリピン語	

対応OS iOS 8.0 以降。 Android 4.1以降。
上記を満たす全ての端末で動作を保証するものではありません。

お問合せ先 国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)
VoiceTra サポートチーム voicetra-support@khn.nict.go.jp

VoiceTraサポートページ
<http://voicetra.nict.go.jp/>

VoiceTra Facebookページ
[@VoiceTra.Support](https://www.facebook.com/VoiceTra.Support)



VoiceTra は、音声翻訳技術の性能評価等の実証実験のために公開されています。そのため、VoiceTra の提供期間やサービスの安定性は保証されず、予告無く提供が終了する場合があります。
本内容は変わることがあります。最新情報は VoiceTra サポートページをご覧ください。